

# 渦度とグリーンของ定理

樋口さぶろお

龍谷大学工学部数理情報学科

ベクトル解析Ⅶ L08(2011-06-15 Wed)

更新:Time-stamp: "2011-06-23 Thu 19:02 JST hig"

## 今日の目標

- 1 保存的/非保存的なベクトル場の閉曲線に沿った線積分が計算できる
- 2 グリーンの定理の定理の意味と使い方を説明できる
- 3 渦度の定義と意味と使い方を説明できる



<http://hig3.net>

## 略解 (線積分)

このベクトル場は渦なし条件を満たし、保存的であることがわかる。  
 ポテンシャルは靈感により  $f(\mathbf{r}) = x^2y^2 + x^5 + 2y^2$ . 実際  $\nabla f = \mathbf{V}$  となっている。よって、 $\int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = f(0, 2) - f(2, 0) = 2^3 - 2^5 = -24$ .

以下、ポテンシャルを求めたくない場合の別解。この曲線じゃやっつけられないので、 $C_1: \mathbf{r}_1(t) = (t, 0)$  ( $0 \leq t \leq 2$ ),  $C_2: \mathbf{r}_2(t) = (0, t)$  ( $0 \leq t \leq 2$ ) をつなげた折れ線  $C_3$  を考える。

$$\begin{aligned}
 & \int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} \\
 &= \int_{C_3} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} \\
 &= \int_{C_1} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} + \int_{C_2} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} \\
 &= \int_2^0 (5t^4, 0) \cdot (1, 0) dt + \int_0^2 (0, 4t) \cdot (0, 1) dt \\
 &= [t^5]_2^0 + [2t^2]_0^2 = (0 - 32) + (8 - 0) = -24.
 \end{aligned}$$

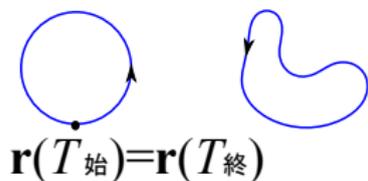
## 略解 (線積分)

- ①  $(\nabla \times \mathbf{V})_z = 5y - 0 \neq 0$  より保存的でない. よって, ポテンシャルを求めたり, 好きな積分路に変更したりするような解法はとれない.
- ② 与えられたパラメタ表示を用いて,  $\frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = (-3t^2, 3)$  より

$$\begin{aligned}\int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} &= \int_0^1 \mathbf{V}(\mathbf{r}(t)) \cdot \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) dt \\ &= \int_0^1 (1, 5(-t^3)3t - 9t^2) \cdot (-3t^2, 3) dt = -19.\end{aligned}$$

## 閉曲線

**閉曲線**とは、  
始点と終点の一致する (向きをついた) 曲線。



### ベクトル場の閉曲線 $C$ に沿った線積分

保存的/非保存的ベクトル場の閉曲線  $C$  に沿った線積分  $I = \int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r}$ .  
は、始点 (=終点) によらない。

なぜなら 小高 あたりまえだから?載ってない

## 問題 (ベクトル場の閉曲線に沿った線積分)

曲線  $C$  を単位円とする. 向きは反時計回りとする.

- ① ベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (1, 3)$  の  $C$  に沿った線積分を求めよう.
- ② ベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (-y, x)$  の  $C$  に沿った線積分を求めよう.

## 保存的ベクトル場の閉曲線 $C$ に沿った線積分

$\mathbf{V}$  が保存的ベクトル場,  $C$  が閉曲線するとき,

$$I = \int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = \square$$

なぜなら

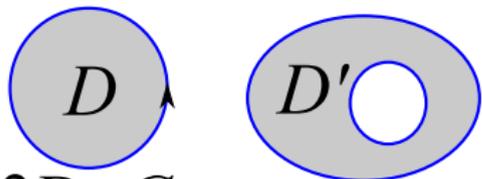
小高 問題 [6.31]

## 領域と境界

**領域**  $D$  とは連結な開集合のこと.

集合位相

領域の境界は閉曲線であり, 記号  であらわす.



$$\partial D = C$$

境界の閉曲線のデフォルトの向きを

その向きに進むと  向き, と定める.

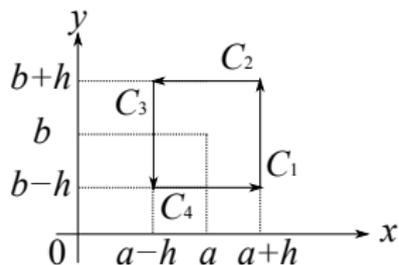
さっきの間: ' $\mathbf{V}$  を単位円板の境界に沿って線積分する'

## ベクトル場の小さな領域の境界に沿った線積分

領域  $D$  として点  $(a, b)$  を中心とする, 一辺  $2h$  の小さな正方形を考える. 小高 §6.3

$$I = \int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = I_1 + I_2 + I_3 + I_4.$$

$$I_1 = \int_{C_1} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r}, \dots$$



どれも  $-h \leq t \leq h$ , 始点  $\mathbf{r}(-h)$ , 終点  $\mathbf{r}(+h)$  のパラメタ表示.

$C_1$ :

$C_2$ :  $\mathbf{r}_2(t) = (a - t, b + h)$

$C_3$ :

$C_4$ :

$$\mathbf{V} = (V_1, V_2).$$

$$\begin{aligned} I_1 &= \int_{C_1} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = \int_{-h}^{+h} \mathbf{V}(\mathbf{r}_1(t)) \cdot \frac{d\mathbf{r}_1}{dt}(t) dt \\ &= \int_{-h}^{+h} \mathbf{V}(a+h, b+t) \cdot (0, +1) dt \\ &= \int_{-h}^{+h} V_2(a+h, b+t) dt \end{aligned}$$

$\mathbf{V}$  は一般だからこれ以上計算できないな～

ことを使おう!

## 復習

2変数関数  $f(x, y)$  の  $(x, y) = (a, b)$  における1次のテイラー展開

$$f(a+h, b+t) = f(a, b) + h \frac{\partial f}{\partial x}(a, b) + t \frac{\partial f}{\partial y}(a, b) + \text{ちょっと}$$

$V_2 = f$  と思って,

$$\begin{aligned}
 I_1 &= \int_{-h}^{+h} +V_2(a+h, b+t) dt \\
 &= \int_{-h}^{+h} + \left( V_2(a, b) + h \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b) + t \frac{\partial V_2}{\partial y}(a, b) + \text{ちよつと} \right) dt \\
 &= + [V_2(a, b)t + h \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b)t + \text{偶関数} + \text{ちよつと}]_{-h}^{+h} \\
 &= + 2h \cdot V_2(a, b) + 2h^2 \cdot \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b) + 0 + \text{ちよつと}.
 \end{aligned}$$

$$I_3 = \int_{-h}^{+h} -V_2(a-h, b-t) dt = -(2h \cdot V_2(a, b) - 2h^2 \cdot \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b) + \text{ち})$$

$$I_4 = \int_{-h}^{+h} +V_1(a+t, b-h) dt = +(2h \cdot V_1(a, b) - 2h^2 \cdot \frac{\partial V_1}{\partial y}(a, b) + \text{ち})$$

$$I_2 = \int_{-h}^{+h} -V_1(a-t, b+h) dt = -(2h \cdot V_1(a, b) + 2h^2 \cdot \frac{\partial V_1}{\partial y}(a, b) + \text{ち})$$

$$I = I_1 + I_2 + I_3 + I_4$$

$$= (2h)^2 \left( \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b) - \frac{\partial V_1}{\partial y}(a, b) \right) + \text{ちよつと}$$

$$\simeq (\text{正方形の面積}) \times \left( \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b) - \frac{\partial V_1}{\partial y}(a, b) \right) + \text{ちよつと}$$

結局,  $D$  を正方形領域とすると, 面積分  $\int dx dy = \int dS$  を使って,

$$\int_{\partial D} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = \int_D \left( \frac{\partial V_2}{\partial x}(a, b) - \frac{\partial V_1}{\partial y}(a, b) \right) dS$$

小高式 (6.12)

## 渦度の定義

ベクトル場  $\mathbf{V} = (V_1, V_2)$  の 渦度 とは

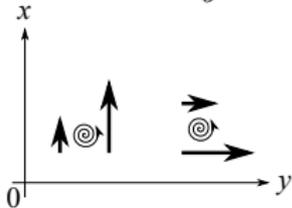
$$(\nabla \times \mathbf{V})_z = \frac{\partial V_2}{\partial x}(\mathbf{r}) - \frac{\partial V_1}{\partial y}(\mathbf{r}).$$

左辺はひとかたまりで渦度を表す記号. 括弧など省略不可.

渦度は点  $\mathbf{r}$  での左巻き渦の程度 (右巻きなら負) を表す 小高 §6.2

渦度が正の状況

$$\frac{\partial V_2}{\partial x} > 0, \frac{\partial V_1}{\partial y} < 0$$



ベクトル場の渦度の例 小高 p.130, 図 6.8

実は小さい正方形領域ばかりでなく、どんな領域  $D$  でも成立する.

## グリーンズの定理

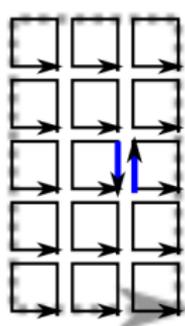
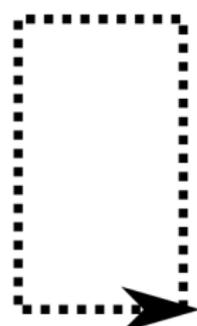
$D$ : 平面の領域.  $\mathbf{V}$ : ベクトル場.

$$\int_{\partial D} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = \int_D (\nabla \times \mathbf{V})_z dS.$$

意味: 流れるプールの縁の勢い = プール内の渦の合計 小高式 (8.6)

証明 小高 p.175

$$\int \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = \int \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r}. \quad \int \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = 0$$



## 重積分の復習

$D$  が  $x = a_1, x = a_2, y = \phi_1(x), y = \phi_2(x)$  に囲まれた領域のとき,  
 $f(x, y)$  の重積分は 小高 §4.1, §4.2

$$\int_D f(x, y) \, dS = \int_{a_1}^{a_2} \left( \int_{\phi_1(x)}^{\phi_2(x)} f(x, y) \, dy \right) dx$$

## 問題 (面積分)

$(0, 0), (1, 0), (1, \sqrt{3})$  を 3 頂点とする直角三角形領域  $R$  で,  
 $f(\mathbf{r}) = x^2y + y^3$  を面積分しよう。

## 問題 (グリーンの定理)

ベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (xy + y, 2xy)$  と、平面の領域  $D$  を考える。ただし、 $D$  は  $(0, 0)$ ,  $(1, 0)$ ,  $(1, 2)$  を 3 頂点とする三角形の内部。

- ① 渦度  $(\nabla \times \mathbf{V})_z$  を求めよう。
- ② 面積分  $\int_D (\nabla \times \mathbf{V})_z dS$  を求めよう。
- ③ 線積分  $\int_{\partial D} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r}$  を素直に求めよう。

## 問題 (グリーンの定理)

ベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (y^2, x)$  を考える。曲線  $C$  を、原点を中心とする半径 2 の円周とする (左回り。どこを始点終点と思ってもいいけど例えば  $(2, 0)$  が始点で終点)。線積分 (マーク 1)  $\int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r}$  をグリーンの定理を使って面積分に直して計算しよう。

## 連絡

- プチテストはそのうち返却
- 来週から quiz 再開
- 大注意: 予習復習問題の締切を 1 日早めます. 月曜 26:00=火曜 02:00 が締切. その後に正解をチェックしてから quiz に参加できるでしょ.

## 教科書のお奨め問題

教科書では  $(\nabla \times \mathbf{V})_z$  のことを  $[\nabla \mathbf{V}]$  と書いています.

- 閉曲線に沿った線積分 小高 問題 [6.31]
- 渦度 小高 問題 6.16(p.135), 章末問題 [6.5](p.149)
- グリーンンの定理 小高 問題 8.6,7(p.178)